

KU-STEAM

第4号

2025年2月

学びのアウトカム



Contents

- 2 巻頭言
- 4 【特集】KU-STEAM 修了者を初めて輩出
- 5 探究・STEAMフェスタ2024
～高校生の探究心に火を灯す～
- 6 KU-STEAM ランチョンセミナー
- 7 令和6年度第2回全学FD研修会, 新企画「FD・SDラウンジ」
- 7 共通テーマ3参加校合同主催・教学マネジメントセミナー 2024
- 8 ガクセイ社会科見学(バスツアー), 図書館企画展示, 編集後記

KU-STEAMガクセイ社会科見学(バスツアー)レポート

ガクセイ社会科見学は、地域の特色を活かした体験や人との交流を通じて、学生の多面的思考を促進し、新しい解決策やイノベーションを生み出す一歩となることを目的としています。今年度は2回開催し、合計26名が参加しました。募集チラシは学生スタッフが考案しました。

第1回 令和6年7月2日

●訪問場所：
加賀建設株式会社

●対象, 参加者数：
金沢大学の学生
15名

[開催記事]
<https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/news/activity/1994/>



参加者の集合写真



金石町家(仮)の取組を学ぶ学生ら

第2回 令和6年11月12日

●訪問場所：
ハチバンフーズパーク
(株式会社ハチバン本社工場)

●対象, 参加者数：
金沢大学の学生
11名

[開催記事]
<https://chishiki.w3.kanazawa-u.ac.jp/news/activity/2204/>



玄関前で8番ポーズ



ハチバンフーズパーク内を見学している学生ら

新企画 「図書館企画展示」

STEAM教育に関する附属図書館企画展示

令和6年4月24日～5月31日、金沢大学附属図書館ギャラリーaスペースにおいて、「先導STEAM人材育成プログラム(KU-STEAM)」の開講科目で提案した、STEAM教育における「A(Art)」を活かした授業成果物を公開する企画展示を初開催しました。教学マネジメントセンター副センター長の林透教授が担当する科目「泉鏡花と金沢アート」では、履修者が金沢・浅野川界隈を舞台とした作品の読解や当該作品の世界観を自己表現するワークを経て、泉鏡花や鏡花作品をモチーフとした都市空間や文化芸術に関するグループ提案を行っています。そのほか、「融合先導知実践演習A(ちょこっとマイプロジェクト)」に関する授業成果物も展示しました。



展示物を見ている学生

Editorial note

編集後記

教学マネジメントセンターでは、角間キャンパス・インキュベーション施設3階に「STEAMラボ」を設置し、文系・理系を問わず、多様な学域・学類の学生が集い、各種企画やデザイン創作を行うためのスペースを用意しています。これまで、チラシのデザイン、イラストの制作、動画撮影・編集など、経験の有無にかかわらず、67名の学生スタッフが幅広く活躍しています!

また、担当教員によるアカデミック・アドバイジングに加えて、学生同士の学び合いを大切に、学年や学域・学類を越えた学び合い(ピア・サポート)の整備にも取り組んでいます。

このような活動に関わってくれるKU-STEAM学生スタッフを募集しています。

ご関心のある方は、募集案内チラシの問合せ先までお気軽にご連絡ください!

学生スタッフ紹介ページはこちら



巻頭言



金沢大学長
和田 隆志

私たちは今、「社会の大きな転換点」に直面しています。AIやDX（デジタルトランスフォーメーション）の活用によって描き出す「未来社会への出発点」に立っています。

本学は、文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業（DP）」の採択をうけ、令和2年度から「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」に取り組んできました。このプログラムは、かつてない変化に直面する社会に対応するための教育改革です。深い専門性を基盤としながら、広範な教養と文理融合の知識をもって新たな世界の価値創造に挑む、領域横断型のSTEAM人材の育成を柱としています。

本プログラムではこれまで、金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）を体現するリベラルアーツ教育を大幅に拡充してきました。本学は、文理医融合を意識した「未来知」に

より現代ならびに未来の課題克服、解決そして新たな価値を創造したいと考え、新学域「融合学域」を設置する等、大胆な教育改革も進めてまいりました。さらに、この融合学域を中心に展開する未来志向型教育をすべての学域に浸透するべく「先導STEAM人材育成プログラム」の拡充に注力しています。総合大学が誇る多分野の専門性に、広範な教養と文理融合の知識を組み合わせ、次なる時代を描き出す知性、すなわち「未来知」を体現するSTEAM人材を、全学体制で育てていきます。

また、本学はDP事業の幹事校に選定され、他の採択校との連携の下、各大学が集約し磨き上げた多彩な「知」を、全国の高等教育機関に波及させる取組を展開してきました。令和6年度の事業終了後も、この「社会の大きな転換点」から、持続可能な希望ある未来社会を創成するべく、今後も引き続き着実に歩を進めてまいります。

関係の皆様におかれましては、本学の取組に今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

KU-STEAMランチョンセミナー

教学マネジメントセンターでは、大学が持つ様々な教育資源をとりまとめ、幅広い教養を身に付ける機会に加えて、学生一人ひとりの可能性を組み合わせ、既存の枠組みを越えて新たな価値を生み出す学びの土壌をつくるため「KU-STEAMランチョンセミナー」を開催しました。ゲストには合計10名の本学学生が登壇し、KU-STEAMの履修体験談や文理融合の学びの意義、KU-STEAMのプログラムを通して学んだことを発表しました。

ゲストの発表後には、教学マネジメントセンターの山下貴弘特任助教が、多様な学びに接続する「先導STEAM人材育成プログラム（KU-STEAM）」のカリキュラムや履修方法等のガイダンスを行い、プログラムの魅力を発信しています。

参加者の声

文理融合の学修内容が面白いと感じた

先輩の経験談からプログラム履修のイメージや実感を持てた

以前から興味があったKU-STEAMのカリキュラムや授業の詳細を聞け、積極的に参加していきたいと思った

令和6年度は

ランチョンセミナー 合計8回開催!

参加人数 合計325名

学生279名のほか教職員等46名が参加



ゲストスピーカーとして登壇する学生



ランチョンセミナーの様子

探究・STEAMフェスタ2024 ～高校生の探究心に火を灯す～開催

教学マネジメントセンターでは、文理融合・分野横断のSTEAM教育推進の一環として、高等学校教育において必修化されている「総合的な探究の時間」をはじめとする教科横断型の探究学習を通じた高大接続・高大連携に着目し、高大接続コア・センターと連携した取組を進めています。「探究・STEAMフェスタ」は、探究学習に取り組んでいる高校1年生を対象に、大学生・大学院学生との対話を通して、自らの探究心を高めるとともに、新たな学びや将来に向けたキッカケづくりを目指して令和4年度から開催しており、今回が3度目です。

教学マネジメントセンターでは、文理融合・分野横断のSTEAM教育推進の一環として、探究学習やSTEAM教育をキーワードに、高校生と大学生・大学院学生が相互に学び合う場づくりとして、高大接続ラウンドテーブル特別企画「探究・STEAMフェスタ2024～高校生の探究心に火を灯す～」を開催し、石川県・富山県・福井県の高校20校から定員を上回る56名の高校生のほか、引率者の高校教員や父母等、本学の大学生・大学院学生を含む計104名が参加しました。

森本章治理事（総括・大学改革・教育・情報担当）／副学長による開会挨拶からはじまり、教学マネジメントセンター副センター長の林透教授による趣旨説明を行い、高大接続コア・センターの荻谷千尋特任助教と田中千晶特任助教、KU-STEAM学生スタッフによるアイスブレイキングを実施しました。

次いで、社会人ファシリテーターである一般社団法人motibase代表理事の和泉宏氏とKU-STEAM学生スタッフによる司会進行、及び株式会社mumm代表/マイプロジェクト福井県事務局の村上純一郎氏らのサポートのもと、大学生・大学院学生によるリアル探究トークや、探究等をテーマとした高校生との対話を行いました。

そして、高校生がワークシートに基づき明日に向けた誓い・宣言を行い、当日の学びを振り返るとともに、今後に向けた探究テーマのキーワードの発表や全体共有を行いました。

さらに、高大接続コア・センターの中野正俊特任助教が、KUGS特別入試制度や金沢大学STELLAプログラムなどの案内を行いました。

最後に、尾島恭子副学長（教育改革・企画評価担当）／教学マネジメントセンター長から閉会挨拶があり、今後の探究・STEAM教育に対する期待のメッセージを送りました。

アンケート結果でも、探究心が「とても高まった」という回答がもっとも多く、引率者の高校教員や父母等からも今後の継続開催を期待する声が寄せられました。

【探究をテーマに4名の大学生によるブース発表】

- (1) 辰島 穂花さん 理工学域理工3学類一括1年次
「『工学×医療』の道」
- (2) 広富 愛奈さん 総合教育部文系1年次
「佐治漆研究とわたし」
- (3) 櫻井 七海さん 理工学域物質化学類3年次
「部活から始まる探究活動」
- (4) 大八木 和輝さん 融合学域先導学類4年次
「アート&デザインの領域における探究」

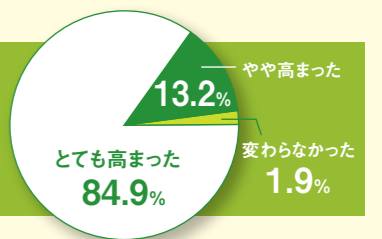
高校生の声

様々な学校の生徒と話をし物事の見方が変わり、また大学生の方々と交流することによって自分が探究したいことが明確になった

今までよく分からず行っていた探究学習について、やっと自分が知りたいと思える探究課題に出会い、探究の考え方を学ぶことができた

探究活動を行う上で「データが集まらない」「対策が既存のものしか思いつかない」ことに困っていたが、実際に探究活動をしている大学生のみなさんから話を聞くことで、解決策のヒントとなる新しい学びを得ることができて有意義な時間となった

探究心は高まりましたか？



参加者の集合写真



4名の大学生が探究をテーマにブース形式で発表



高校生と大学生の個別の対話

KU-STEAM 修了者を 初めて輩出



- トピック
- (1) KU-STEAM 修了者を初めて輩出
 - (2) KU-STEAM 修了者と理事・副学長との懇談会を実施
 - (3) KU-STEAM 修了者の声／企業・地域等の声を掲載

KU-STEAM 修了者状況 (令和7年1月時点)

402名輩出!

学域単位の修了者の数

学域	修了者数
融合学域	59名
人間社会学域	295名
理工学域	41名
医薬保健学域	7名

Q.KU-STEAM 修了者とは?

金沢大学・知識集約型社会を支える人材育成事業 (KU-DP) で実施している「先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM)」では、プログラムが定める一定の単位修得状況に応じて、ブロンズ・シルバー・ゴールド・プラチナの各アワードを付与します。プラチナに到達した者が、KU-STEAM 修了者です。

(1) KU-STEAM 修了者を初めて輩出

本学は、令和2年度に文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」に採択され、「融合した専門知と鋭敏な飛躍知を持つ社会変革先導人材育成プログラム」に取り組んでいます。同プログラムでは、令和3年度以降、全学域学生を対象に文理融合教育を実践する特別プログラム「先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM)」を展開しており、令和5年度に初めての修了者を輩出しました。修了者は令和7年1月時点で402名に達しています。

(2) KU-STEAM 修了者と理事・副学長との懇談会を実施

令和6年7月30日、「先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) 修了者との懇談会」を開催しました。懇談会には、修了者を代表して融合・人間社会・理工の各学域から4名の修了者が参加し、森本章治理事 (総括・大学改革・教育・情報担当) / 副学長、尾島恭子副学長 (教育改革・企画評価担当) / 教学マネジメントセンター長及び KU-STEAM の開発を担当する教学マネジメントセンター教員に、本プログラムを通して得た学びや気づきを発表し、今後の学修や卒業後の進路への生かし方、プログラム改善などについて意見を交わしました。

修了者からは、KU-STEAM の履修を通じて、他学域・学類等の学生と交わる中で多くの学びを得たとの意見があり、本プログラムでの学びの価値を改めて認識する機会となりました。

KU-STEAM は、自身の専門分野に軸足を置きながら、積極的に他分野の知見を深め、異分野・異文化協働を実践することによって、未来課題の解決に挑戦する、先導 STEAM 人材の育成を目的としています。

今後も、STEAM 教育・文理融合教育を一層推進し、社会課題に対し新たな価値を創出できる人材の育成・輩出に取り組んでいきます。



参加者の集合写真



意見交換の様子

■ KU-STEAM 修了者:

- 大八木 和輝さん 融合学域 先導学類4年次
- 中田 朋希さん 人間社会学域 人文学類4年次
- 長野 重音さん 人間社会学域 国際学類3年次
- 清水 佑真さん 理工学域 生命理工学類3年次

■ 本学出席者:

- 森本章治 理事 (総括・大学改革・教育・情報担当) / 副学長
- 尾島 恭子 副学長 (教育改革・企画評価担当) / 教学マネジメントセンター長
- 林 透 教学マネジメントセンター副センター長・教授
- 山下 貴弘 教学マネジメントセンター 特任助教

KU-STEAM を通した学びの言語化

大八木さん: 私はアートを学ぶため2年次にアメリカの大学へ派遣留学しました。現在、美術館とコラボレーションをしながらARスポット設置のプロジェクト活動を進めています。私が、単位にかかわらず、KU-STEAM を受けようと思った理由は二つあります。一つ目は、ディスカッションやプレゼンテーションなどのアクティブラーニングの学びが KU-STEAM のカリキュラムに整備されていることに魅力を感じたところです。二つ目は、所属の先導学類の中で活動や人間関係を完結させるのではなく、学域・学年を越えて様々な学生と交流しながら学びたいという思いが強かったからです。特に、KU-STEAM の授業の中で印象に残っているのは「融合先導知実践演習 A (ちょこっとマイプロジェクト)」です。この授業では、学域・学年を越えて様々なバックグラウンドや価値観を持つ学生と、これまでの自分の人生を振り返ることによって、自分の挑戦したいことを明らかにすることができました。本授業を通し、固定観念にとらわれず新しいことに積極的に挑戦したいという自分の価値観・特性を改めて言語化することができました。このように様々な「学び」に対して前向きな姿勢や思考が身に付きました。

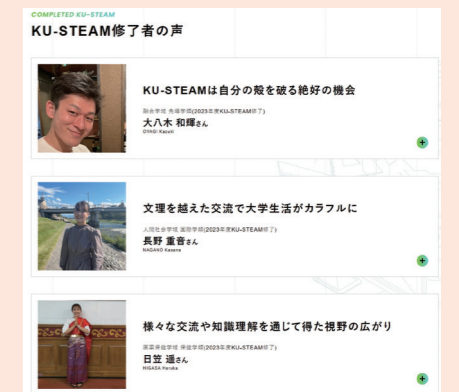
中田さん: 私は、幼い頃からよく読書をし、「人はなぜ生きているのか」という『生』に対する問いに興味がありました。大学でも哲学を専攻し、卒業論文のテーマでは「現代の哲学におけるニヒリズムについて」を考えています。KU-STEAM の中で特に印象的だった授業は「実践インターンシップ」です。この授業は他の KU-STEAM の授業に比べても、実際に実践することができ現実的だったからです。実践インターンシップは、金沢市内で子どもにデジタル教育を行っている「ミミミラボ」に赴きました。実際に「未来につながる新しいことを作りだすこと」は有意義でした。

長野さん: 私は、大学入学時に専攻を迷いました。様々なことに関心を広げていたので、興味のある分野の一つに絞っても、後々、複数の分野に興味を持つのではないかと考えていたからです。そのため、学部・学科より垣根が低い金沢大学の学域・学類制を選択し、その中でも2年次進学の際に所属学類を決められる総合教育部に入学しました。入学後、他分野の学生と交流ができる「KU-STEAM」に興味を持ちました。KU-STEAM で印象的だった授業は、「融合先導知実践演習 A (ちょこっとマイプロジェクト)」です。この授業に参加して、実践することで上手いかわなくても失敗した理由を考える癖がつき、失敗から気づきを得られることを学びました。その後、挑戦することへのハードルが下がり、何事に対しても挑戦したいと思う気持ちに素直になりました。私は積極的な性格ではありませんでしたが、KU-STEAM 学生スタッフとしての活動や、フランスでのインターンシップの参加を通して、KU-STEAM の目標の5つの力のうち、挑戦・実践力がとても身に付いたと感じています。今後は、今年の夏に挑戦する実践インターンシップのほか、学生スタッフとしての活動を通して今後も学びを深めていきたいです。

清水さん: 私の専攻は生物科学コースで、「生体学と解剖分子生物学」といった生物のことを学んでいます。高校生のときは物理を勉強していましたが、高校2年生の時に読んだ「漫画で分かるゲノム編集」という本に影響を受け、「ゲノム編集」の面白さに気づき、以降生物に色々と興味を持ち、金沢大学で生物を専攻しました。KU-STEAM で一番学んだことは、「様々な分野や価値観と触れ合うことの大切さ」です。私は、昨年の2~3月にかけてニュージーランドに留学に行きました。私は、留学のような大胆な行動をするのは元来苦手なのですが、1年次に受講した「融合先導知実践演習 A (ちょこっとマイプロジェクト)」に刺激を受けて挑戦しようと思いました。帰国後も、今まで履修したことのない授業の履修や経験のないアルバイトを通し、自分の知らないことや苦手なことを学ぶことができました。このように、様々な分野や価値観を学ぶことが必要だと気付けたのは KU-STEAM のおかげであり、KU-STEAM が挑戦の機会を与えてくれたからだと思います。

(3) KU-STEAM 修了者の声／企業・地域等の声を掲載

先導 STEAM 人材育成プログラム (KU-STEAM) を修了した学生から、KU-STEAM を学んだ動機や役に立っていることなど、学生のリアルな意見を「KU-STEAM 修了者の声」として掲載し、本プログラム Web サイトで公開しました。また、KU-STEAM の授業に参画した企業から寄せられた KU-STEAM に期待することを「企業・地域等の声」に掲載しています。



KU-STEAM 修了者の声の一覧 (一部抜粋)



企業・地域等の声の一覧 (一部抜粋)

令和6年度第2回全学FD研修会開催

文理融合・STEAM教育に関連した授業設計とは ～教養教育, 専門教育など多様な観点から考える～

令和6年7月4日, 令和6年度第2回全学FD研修会「文理融合・STEAM教育に関連した授業設計とは～教養教育, 専門教育など多様な観点から考える～」をオンライン開催し, 学内外の教職員・学生101名が参加しました。

本研修会は, 文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」幹事校企画の一環として開催するとともに, FD委員会, 教務委員会及び公益社団法人・大学コンソーシアム石川の共催で実施しました。

近年, 学校教育だけでなく, 大学教育において, 文系・理系を越えた知識理解や姿勢・態度の修得の必要性から, 文理融合・STEAM教育に関する話題が増えてきました。この動向は, 「高等学校における教科横断型教育の動きが大学教育の変容を迫っている点」「イノベーションを創出できる『総合知』を備えた人材の育成を求めている点」の二つの教育政策に起因しています。このような教育政策を促進するため, 文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」[地域活性化人材育成事業 (SPARC)]のほか, 私立大学等改革総合支援事業でも文理融合・STEAM教育に関する取組が指標化されています。一方, 大学教育関係者の間では, 文理融合・STEAM教育に関する具体的な授業設計において試行錯誤するケースが散見されます。本研修会では, 文理融合・STEAM教育に関連した授業実践事例を紹介し, 大学教育分野における文理融合・STEAM教育の在り方について, 「文理融合・STEAM教育に関連した授業設計とは～教養教育, 専門教育など多様な観点から考える～」をテーマに, 基調講演や事例紹介を通して参加者とともに考える機会としました。

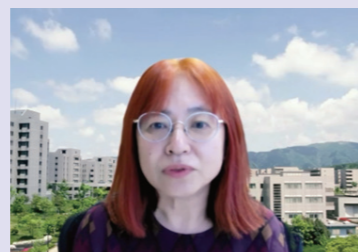
はじめに, 森本章治理事 (総括・大学改革・教育・情報担当) / 副学長より開会挨拶がありました。その後, 北陸先端科学技術

大学院大学の永井由佳里理事 (研究振興, 社会連携担当)・副学長が「大学教育分野における文理融合・STEAM教育の可能性～高次STEAMと新たな社会課題～」と題し, STEAM教育の背景や定義, 社会や産業へどのようにつなげていくのか, という観点から基調講演を行いました。特に, 「人間性と野性」として, デザイン (探索的思考) が大切であると力説されました。

続いて, 本学の文理融合・STEAM教育の話題提供として, 融合研究域融合科学系の南保英孝教授が「理数系分野における文理融合・STEAM教育の授業実践」, 教学マネジメントセンター副センター長の林透教授が「『泉鏡花×金沢アート』をコンセプトとしたSTEAM教育の授業実践」, 続いて, 同センターの山下貴弘特任助教が「キャリアデザインを活かした文理融合・STEAM教育の授業実践」と題した事例紹介を行いました。

後半の意見交換では, 林教授によるファシリテートのもと, フロアとの質疑応答を通して, 創造性に関する学生の質の変化, リフレクションの方法, 学生の気づきを促す工夫や専門知や異分野を意識させる工夫, 複数の分野の組み合わせ方など, 多くの質問が寄せられました。

2時間という短い時間でしたが, 本学をはじめとする大学関係者にとどまらず, 企業等からの参加を含め, 100名以上の参加申込みをいただき, 大学における文理融合・STEAM教育の在り方への関心の高さを感じることができた, 大変有意義な機会となりました。



基調講演を行う
永井由佳里理事・副学長

とどまらず, 企業等からの参加を含め, 100名以上の参加申込みをいただき, 大学における文理融合・STEAM教育の在り方への関心の高さを感じることができた, 大変有意義な機会となりました。



木村拓也教授



大関智史専任講師 (写真左) と林透教授 (写真右)

第1回

実施日: 令和6年9月9日
演題: 「国立大学における探究型入試の今後の方向性」
講師: 九州大学大学院 人間環境学研究院 教育学部門 (教育学部) 木村拓也 教授

第2回

実施日: 令和6年11月29日
演題: 「DX・IRに関する取組紹介と今後の可能性～身近なソフトウェア活用からMicrosoft365や生成AIの活用事例まで～」
講師: 宮崎大学 IRセンター 大関智史 専任講師 (金沢大学 教学マネジメントセンター アドバイザー)

新企画

「FD・SDラウンジ」

「FD・SDラウンジ」とは?

近年, 高等教育を取り巻く環境の変化が目まぐるしく, 高等教育機関として対応を求められるテーマや領域が多様化しています。そのため, 最新の情報や今後の方向性を情報収集し, 意見交換する必要性が増えています。そこで, 教学マネジメントセンターでは, 時機に応じたテーマを話題に, 短い時間で気軽に参加・意見交換できることをコンセプトとした新たなFD・SDイベントとして, 「FD・SDラウンジ」を令和6年度から開催しています。

共通テーマ3参加校合同主催・教学マネジメントセミナー2024開催

分野横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える ～文理融合・STEAM教育の時代における新しい学修支援

令和6年12月9日, 「知識集約型社会を支える人材育成事業 (DP)」共通テーマ3参加校 (金沢大学・大正大学・新潟大学・早稲田大学) 合同主催・教学マネジメントセミナー2024『分野横断の学びを支援する組織・方法・担い手について考える～文理融合・STEAM教育の時代における新しい学修支援～』を, 会場の大正大学 巣鴨キャンパス1号館2階 大会議室とオンラインのハイブリッドで開催し, 学内外の教職員・学生170名が参加しました。

DP事業では, 令和4年度から, 当該メニューI・II・IIIを横断した共通テーマを4つ設定し, 採択校9大学が各メニューを越えて相互連携することにより, 汎用性ある成果を蓄積・発信することを目指しています。このうち, 共通テーマ3は「多様な学びを支援する方法及びシステムのあり方を情報交換・検討」をテーマに掲げています。

本セミナーでは, 冒頭, 大正大学の神達知純学長が開会挨拶をした後, 文部科学省高等教育局大学教育・入試課の山田研市課長補佐から来賓挨拶がありました。

その後, 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室の清水栄子准教授 (日本アカデミック・アドバイジング協会会長) が「分野横断の学びを豊かにするアカデミック・アドバイジングとは」と題し, また, 上越教育大学大学院学校教育研究科の松下健教授 (日本ピア・サポート学会理事) が「文理融合・STEAM教育におけるピア・サポートの効果と可能性」と題し, 基調講演を行いました。

「採択校からの成果報告」では, 金沢大学教学マネジメントセンター副センター長の林透教授, 大正大学学修支援センターの長谷川隼人専任講師, 新潟大学教育基盤機構教学マネジメント部門の上島洋准准教授, 早稲田大学社会科学部の早田宰教授が, 各大学における取組内容や成果を発信しました。

また, 休憩時間には, 採択校9大学によるポスターセッションを行い, 参加者同士で活発な意見交換が行われました。

後半のパネルディスカッションでは, 「文理融合・STEAM教育の時代における新しい学修支援」をテーマに, 金沢大学教学マネジメントセンターの山下貴弘特任助教によるファシリテートのもと, 2名の基調講演者に加えて金沢大学人間社会学域国際学類3年次の長野重音さん, 大正大学文学部人文学科3年次の富岡沙和さん, 新潟大学経済学部4年次の佐々木真理也さん, 早稲田大学社会科学部4年次の柳原百花さんの4名の学生を交えて, 基調講演や採択校からの成果報告に関して寄せられた質問に沿って, 「学修支援における成果」「アカデミック・アドバイジングを実現するための全学的な支援体制」「ピア・サポートを継続していくための課題」「学生支援のTips」などについて意見交換がなされました。分野横断の学びを支援する「組織」「方法」「担い手」について, アカデミック・アドバイジングとピア・サポートの知見に加えて, 学生の実体験に基づいた新しい学修支援の在り方について考える貴重な機会になりました。

最後に, 金沢大学の尾島恭子副学長 (教育改革・企画評価担当) / 教学マネジメントセンター長より閉会挨拶がありました。

参加者のアンケート結果からは, 「分野横断の学びを行うアカデミック・アドバイジングはアドバイザーのみの尽力ではなく, 全学的なサポートが必要なことがわかった」「ピア・サポートという立場でも, 携わった学生たちを成長させていくことができる可能性がわかった」「他大学学生の取組状況がよく分かった。サポート学生の研修の内容など参考になった」「各大学の学生の発表内容や質疑の受け答えが素晴らしく, とても良かった」という声が寄せられ, 盛況のうちに会を終えました。



基調講演を行う清水栄子准教授



基調講演を行う松下健教授



成果報告を発表する林透教授



パネルディスカッションの様子